

NISA 口座予約が 9 月までに証券だけで 322 万件!  
NISA 向け急増を受け新ファンド数が最高レベルに急増!!  
投資の流れは、海外株と海外債、そして国内株にあり!!!

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

## NISA 口座予約が 9 月までに証券だけで 322 万件!

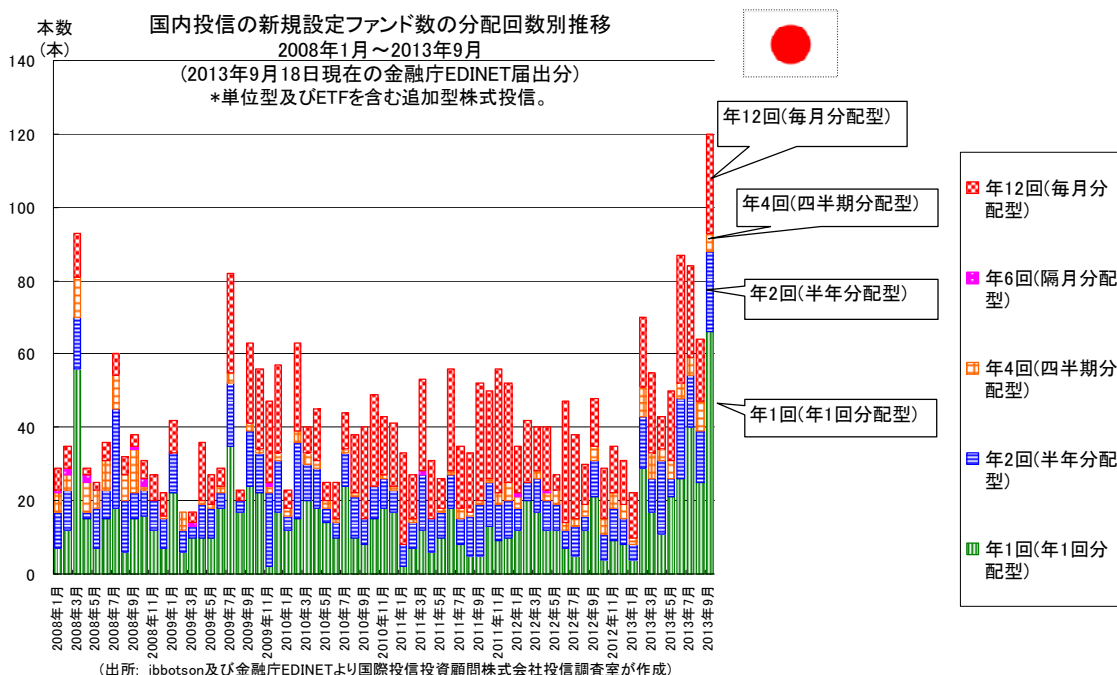
2013 年 9 月 18 日(水)付日本経済新聞朝刊 1 面トップに大きく「NISA 200万口座超す、貯蓄から投資弾み、専用投信など170本」と言う見出しの記事が出た(URL は後述[参考ホームページ])。その一部を下記する。

大手証券と主要なネット証券に聞き取り調査したところ、17日までに予約件数は200万を超えた。…(略)…。各社が NISA 用として勤める既存投信や新たに投入する専用投信を集計したところ、ファンド数はすでに 172 本に達した。中身を見ると、初心者にもわかりやすい内容の投信が大半だ。株価指数などに連動するインデックス型が全体の30%を占める。みずほ証券は今月にかけてネット専用のNISA向け投信 22 本をそろえた。次に多いのが、株や債券などへの分散投資で安定運用を狙うバランス型で、全体の25%だ。…(略)…。ファンド調査会社のリッパーによると、NISA向け投信の設定増を背景に、9月の新規設定本数は現時点で112本。月間としては 08 年 3 月(97 本)を上回り、バブル崩壊後の最高だった 1994 年 2 月(120 本)に迫る。…(略)…。(下線は筆者)～以上が記事。

上記は 9 月17日までに少額投資非課税制度(日本版ISA=NISA)の口座予約が大手証券と主要なネット証券で200 万件を超えたと言う記事である。9 月 18 日には日本証券業協会が 9 月末(見込みを含む)までの証券128社の予約件数が322万件となった事を発表した(日本証券業協会～URL は後述[参考ホームページ])、銀行等が含まれていないことから、「2014 年に 5～600 万人、4～5 兆円となる可能性は十分ある」との予想がより現実的になったと思われる(予想…2013 年 6 月 3 日付日本版 ISA の道 その 14～URL は後述[参考ホームページ])。

## NISA 向け急増を受け新ファンド数が最高レベルに急増!!

記事には「NISA向け投信の設定増を背景に、9月の新規設定本数は現時点で112本」とあった。投信調査室も 9 月 17 日から稼動したばかりの新しい EDINET を使い調べた。結果、9 月 18 日現在で 9 月の新ファンド数は 120 本と、「バブル崩壊後の最高だった 1994 年 2 月(120 本)」と並んでいた(EDINET～URL は後述[参考ホームページ])。



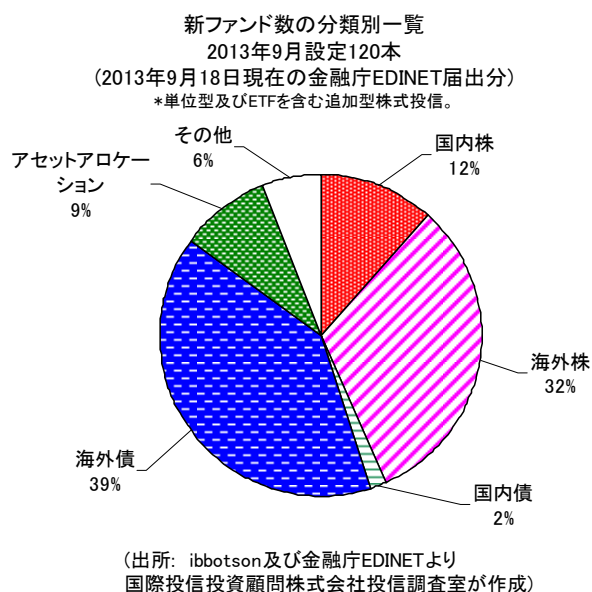
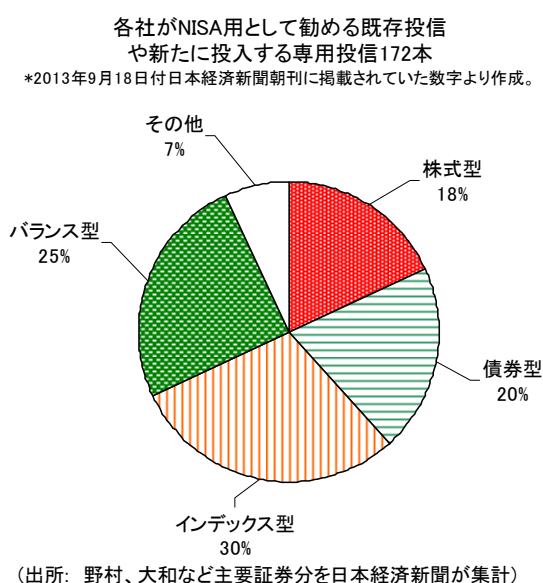
前頁下方のグラフが示す通り、新ファンド数を 120 本と、最高レベルに押し上げた主因は、年 1 回(年 1 回分配型)66 本(年 1 回の最高レベル)にある。年 1 回は必ずしもNISA向けではないものの、NISA 向けが多い。理由は、NISA では分配金の再投資が「購入」に該当し非課税枠に加算されるため、もし非課税枠(年 100 万円)を使い切っていると、その年については再投資を非課税に出来なくなり、さらに、分配金が投信の元本払戻金(特別分配金)の場合、もともと元本払戻金(特別分配金)は非課税であるため、せっかくの非課税枠を「無駄に使う」となる。そのために、無(低)分配が志向され、年 1 回などが増えていくと予想されていた。今、まさにその予想の展開となっている(予想… 2013 年 4 月 15 日付日本版 ISA の道その 8~URL は後述の参考ホームページ)。

## 「バランス型」と「アセットアロケーション」の違いを理解

先の記事にはまた「各社が NISA 用として勧める既存投信や新たに投入する専用投信」と言うものが 172 本あって、それは「株価指数などに連動するインデックス型が全体の30%を占める。みずほ証券は今月に向けネット専用のNISA向け投信 22 本をそろえた。次に多いのが、株や債券などへの分散投資で安定運用を狙うバランス型で、全体の25%だ。」と出ている。この様な数字は NISA 向けに、どの様な投信が投入されているか、人気があるかを示すものとしても有用である。

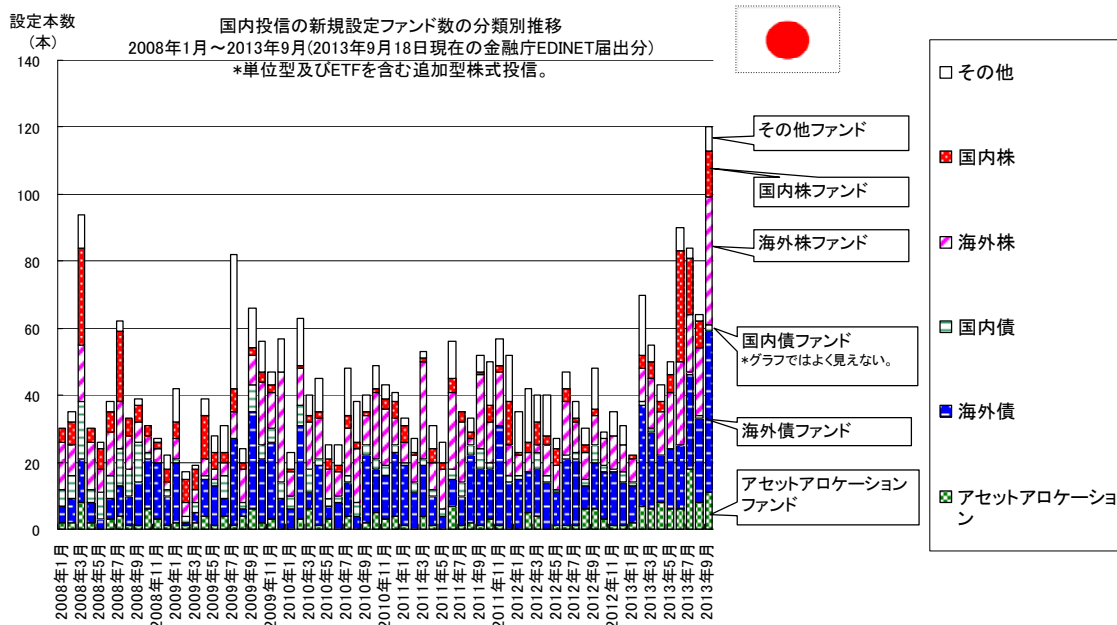
ただ、「株式型、債券型、インデックス型、バランス型、その他」では、やや大まか過ぎると思われる。特に、NISA 向けに注目される「バランス型」が不透明である。同記事には「株や債券などへの分散投資で安定運用を狙うバランス型」と言っている。ただ、投資信託協会の分類「バランス型」は、一般的な海外債ファンドや国内債ファンドなどを多々含む一方、最近よく見かける「NISA 向け」もしくは「新バランス型」などの言葉を使うファンドは投資信託協会の分類「ファンドオブファンズ」を使う場合も多い。ここでバランス型を整理するとともに、インデックス型や株式型、債券型の中身について見ていくこととする。

ただ、「NISA 向け」と言っても、NISA 専用ではないファンドが多く、NISA 専用でも名前で認識出来るものは数少ない。そこで、NISA 向けが多いとされる 9 月の新ファンド数 120 本を、「国内株、海外株、国内債、海外債、アセットアロケーション、その他」と分類してみた(ヒストリカルやもっと詳細な分類は後述)。尚、分類については客観性を維持するために、イボットソン(ibbotson)やモーニングスター(Morningstar)が使っている分類としている。同分類では先の投資信託協会の分類「バランス型」の様に一般的な海外債ファンドや国内債ファンドなどを含むこともなく、「株や債券などへの分散投資で安定運用を狙う」と言う投信、「アセットアロケーション」もある(\*アセットアロケーションの内訳もある)。下記右グラフがそれで、「アセットアロケーション」は「バランス型」より少なく、一方で「海外債」や「海外株」がかなり多いことがわかる。



## NISA向け増加を背景に急増する9月の新ファンドは海外株と海外債が最多!

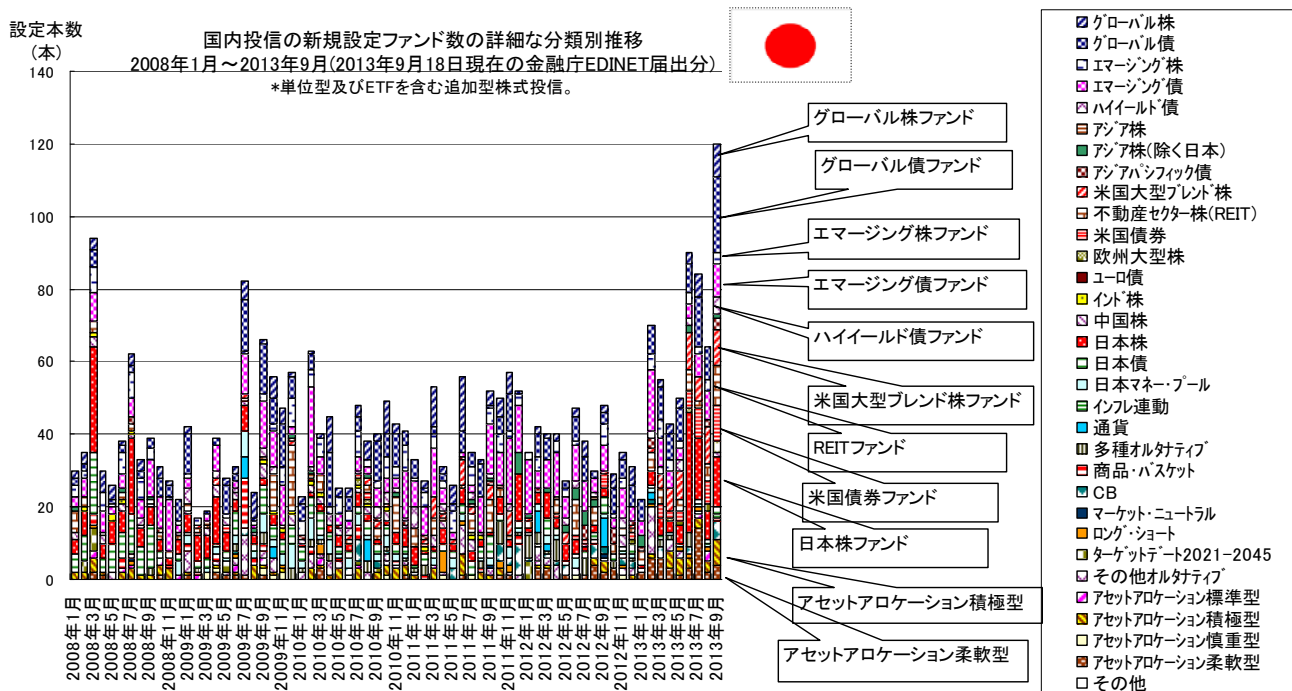
9月の新ファンドにおいて、「海外債」と「海外株」が多いことがわかった。こうなると、ヒストリカルも見たい。分類別推移で見たところ、2013年9月の「海外債」48本も「海外株」38本も過去最高レベルとなっていることがわかる(\*「アセットアロケーション」は2013年7月に18本とかなり多く、2013年8月は8本、2013年9月は11本)。



(出所: ibbotson及び金融庁EDINETより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

## 9月の新ファンドを詳細な分類で見ると、グローバル債、次いで日本株、REIT!!

以上をもっと詳細な分類で見た。下記グラフであり、やや見えにくいですが、2013年9月は「グローバル債」21本、「日本株」14本、「REIT」11本、「米国債券」10本、「米国大型ブレンド株」10本、「エマージング債」9本、「グローバル株」9本、「アセットアロケーション積極型」7本、「アセットアロケーション柔軟型」4本となっている(\*「アセットアロケーション柔軟型」は2013年7月に14本まであり)。ここでも「海外債」や「海外株」が増えていることがわかる。また、詳細な分類で見ると、海外債や海外株が細かく分かれるため、日本株が上位に浮上してくることとなる。

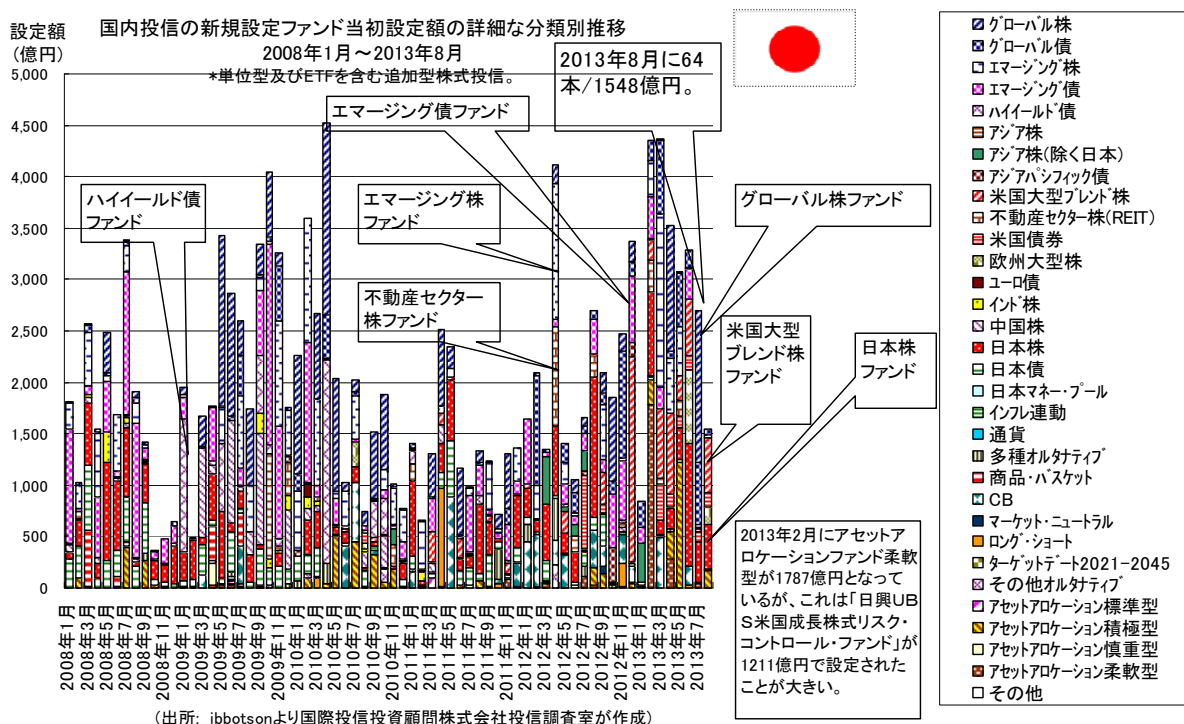
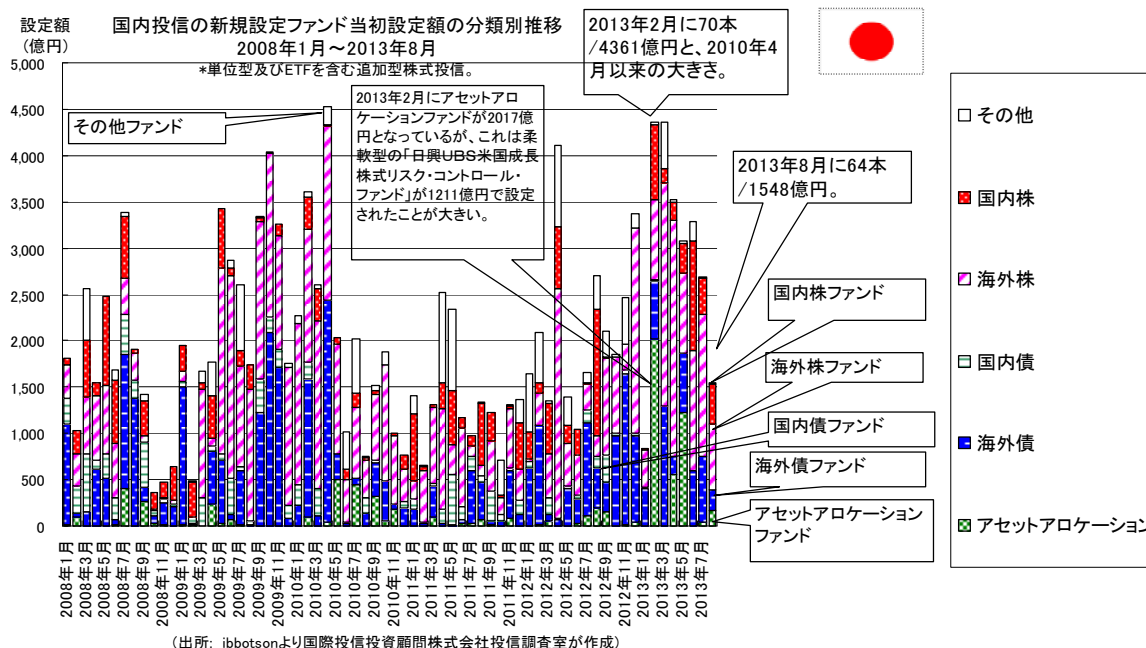


(出所: ibbotson及び金融庁EDINETより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

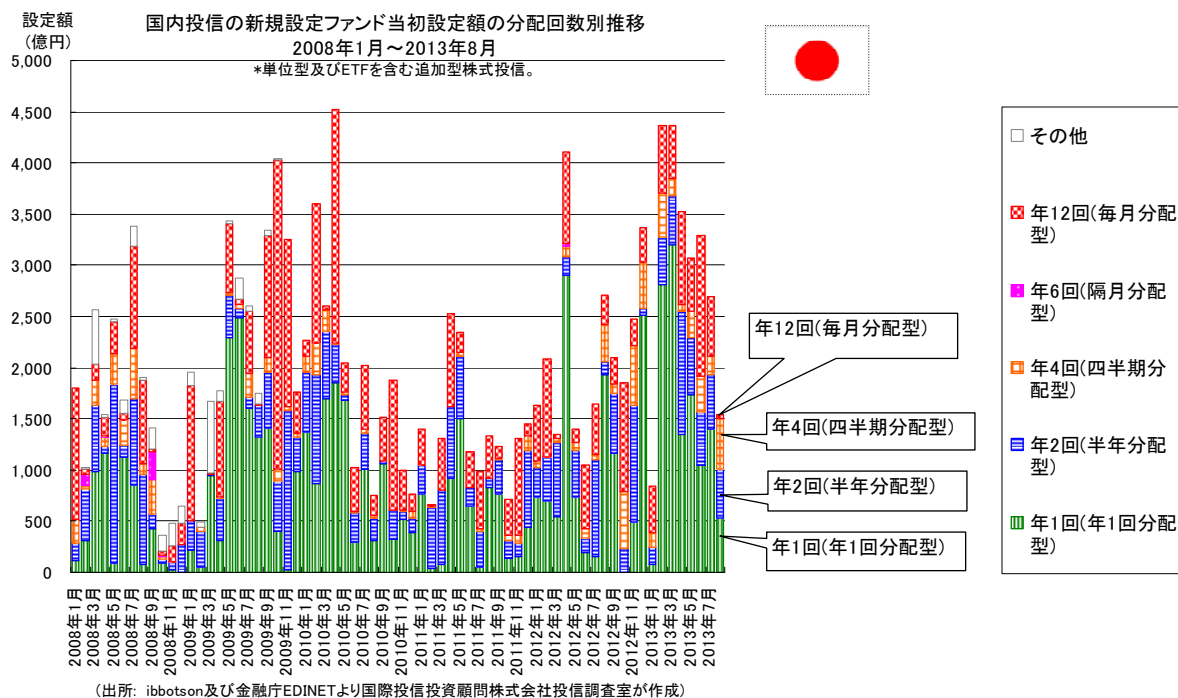
## 国内株は NISA 開始月に大きくなる可能性あり

以上は本数データであったが、新ファンドを当初設定額で見たのが下記グラフである。2013年9月分はまだ設定されていないものもあるため、2013年8月分までである。上記で見えてきた数では急増してきたが、額では鈍化が目立つ（\*もちろん今後期待出来るが）。その鈍化する中で大きいのは、やはり海外株や海外債、そして国内株となっている。国内株と言うと、NISAの本家である英国ISAで、ISAの開始月（\*英国では4月、日本では1月）に設定が集中、それ以外の月では解約が続く傾向は見えるが、日本でもそうなる可能性はある（2013年7月22日付日本版ISA その21～URLは後述の参考ホームページ）。

いずれにしろ、こうしたデータをしっかり見て、思い（込み）を避け（\*思いは思いで大事とも思われるがここは冷静になり）、投資の流れに逆らうことなく、NISAを「貯蓄から投資へ」の流れへの弾みにしていきたいものである。



最後に、新ファンド当初設定「額」の分配回数別推移を見ておく。下記グラフがそれで、最初の頁にあった「数」の分配回数別推移の設定「額」版である。気付くのが、年1回(年1回分配型)や年2回(半年分配型)、年4回(四半期分配型)の多さ、そして年12回(毎月分配型)のここに来ての急減である。こうした分配回数、分配志向についても、データをしっかり見て、冷静な判断をし、「貯蓄から投資へ」の流れを進めたいものである。



【参考ホームページ】

- 2013年9月18日(水)付日本経済新聞朝刊1面トップに大きく「NISA 200万口座超す、貯蓄から投資弾み、専用投信など170本」と言う見出しの記事…「[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGD1704R\\_X10C13A9MM8000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGD1704R_X10C13A9MM8000/)」、
- 2013年9月18日付日本証券業協会会長記者会見資料…「[http://www.jsda.or.jp/katsudou/kaiken/kaiken\\_h25.html](http://www.jsda.or.jp/katsudou/kaiken/kaiken_h25.html)」、
- 2013年6月3日付日本版ISAの道 その14「カナダ版ISA『TFSA』を見ていると、日本版ISA(NISA/ニーサ)が2014年に5～600万人、4～5兆円となる可能性は十分あると言えそう～日英加の少額投資非課税制度比較～。」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/130603.pdf>」、
- 金融庁の次世代EDINETより…「<http://www.fsa.go.jp/search/20130917.html>」、
- 2013年4月15日付日本版ISAの道 その8「日本版ISAと無(低)分配志向と日本株ファンド～軽減税率打ち切り前に検討すること、無分配投信のこと～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/130415.pdf>」、
- 2013年7月22日付日本版ISA その21「NISA(日本版ISA)の本家・英国ISAのファンドは今～国内株やアロケーションなどを中心に拡大中、IFAが活用するファンド・プラットフォームは圧倒的規模に!～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/130722.pdf>」。

以上

(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。
- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。
- また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。